

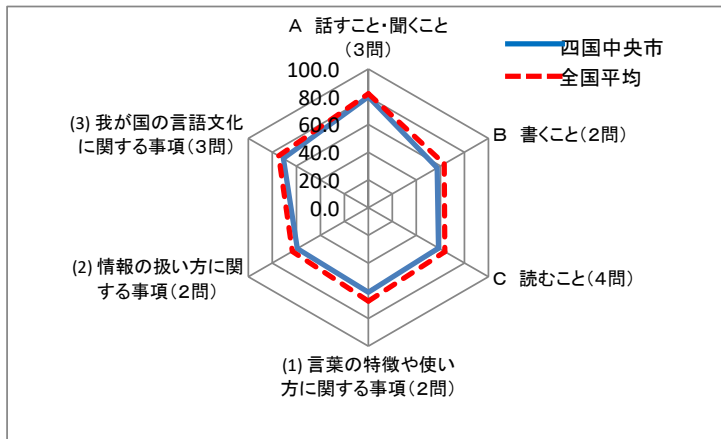
令和5年度全国学力学習状況調査の結果について四国中央市の中学生の状況についてお知らせします。

1 学力の状況

レーダーチャートは、各領域における正答率を示しています。項目の後の()内の数字は、対象問題数を表しています。問題によっては、複数の項目に含まれる場合があります。

国語科、数学科、英語科ともに昨年度と比較して、低下しました。全国平均と比べても全ての領域において、平均正答率が下回りました。国語、数学、英語ともに課題があるようです。それぞれの分析は以下の通りです。

国語

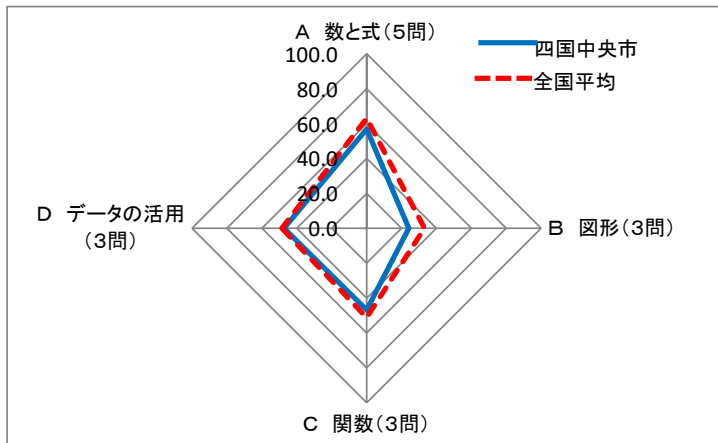


【国語分析】

聞き取ったことを基に目的に沿って自分の考えをまとめる問いでは、正答率が全国平均を上回っています。しかし、領域別にみると全国平均を下回っており、特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られます。事象や行為、心情を表す語句についての理解はできているものの、文脈に即して漢字を正しく書く問いが全問題中で一番正答率が低いという結果でした。

1人1台端末を有効活用し、自分の考えを文章でまとめたり、それを基に話し合ったりする活動とともに、漢字や文章をノートに書く活動なども積極的に取り入れ、デジタルとアナログのベストミックスの授業づくりを進めることで力を付けていきます。

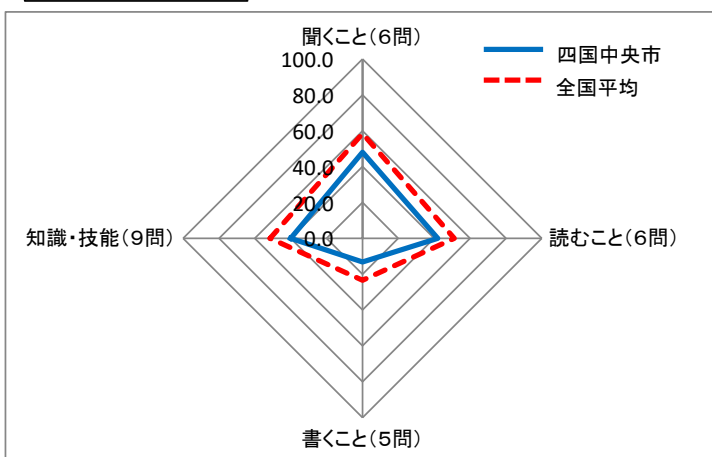
数学



【数学分析】

累積度数についての正答率は、全国平均を上回っており、理解が深まっています。しかし、領域別にみると全国平均を下回り、「図形」の領域では課題が見られます。空間における平面が同一線上にない3点で決まることや2直線の平行を合同な三角形の同位角や錯角が等しいことを示して証明する問いでは、全国平均を大きく下回っています。また、日常生活や社会の事象を複数のデータから考察し、数学的に解釈し説明する記述式の問いでは、無解答率が高くなっていました。答えを導き出すために、多様な考え方ができる活動をこれまで以上に取り入れる必要があると考えます。そこで、自分の考えを式や言葉で表現する機会を増やし、それを1人1台端末で共有して多様な考え方に触れる学習に取り組んでいきます。

英語

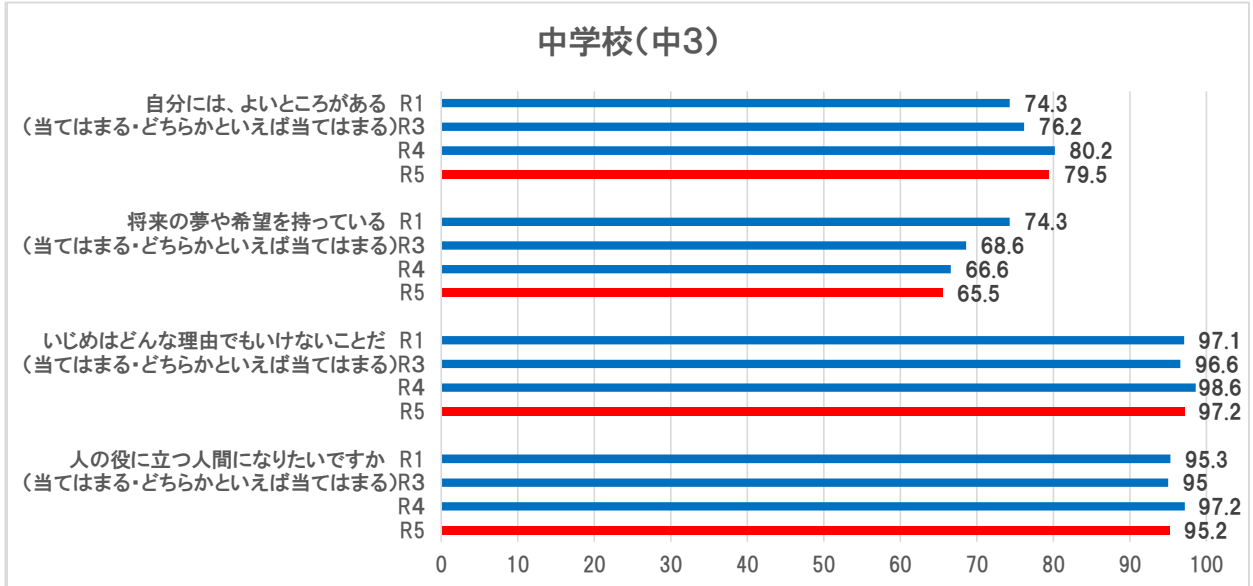


【英語分析】

英語では、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」全ての項目において、全国平均を下回っています。基本的な単語や文法の習得に課題があることから、英文の大きな内容を掴む力が弱く、問いに対して自分の考えを英文で表現する力が十分ついていないことが結果から伺えます。

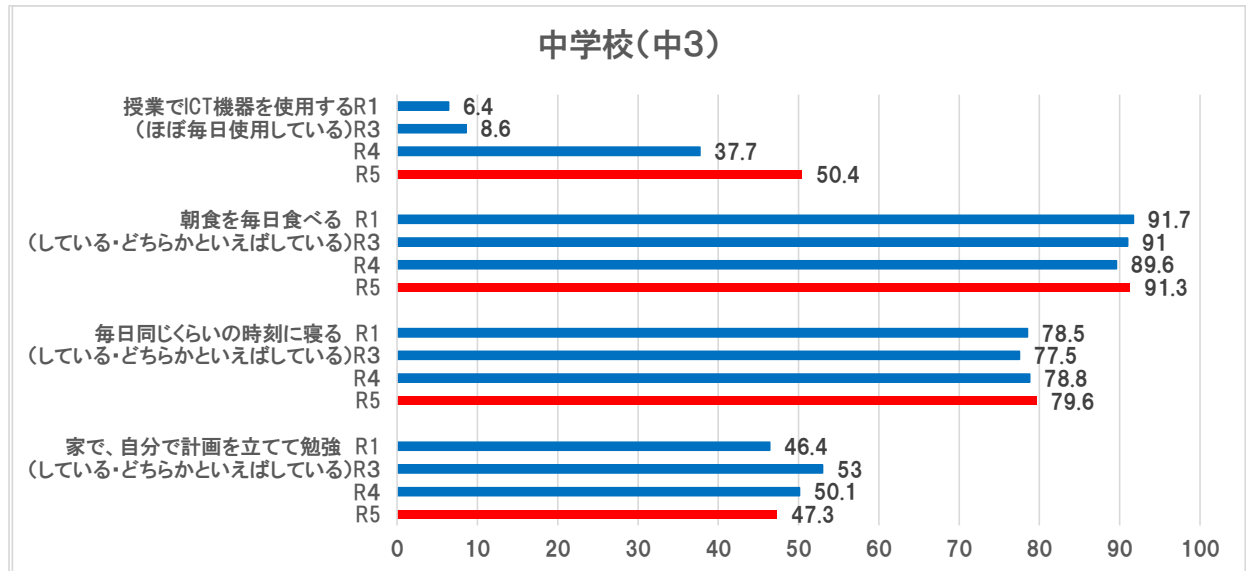
特に、英文を聞いて内容を理解することに苦手意識を持っている生徒が多いことが、無解答率の多さからも伺えます。今後は現在行っている外国語指導助手とのチーム・ティーチングを更に活用し、生徒がネイティブの発音に触れたり、英語でのやり取りをしたりする機会を増やすなど英語に慣れ親しむ活動を進めていくとともに、基礎的な内容の習得にも継続して力を入れていきます。

2 心の状況



3 生活習慣の状況

※生活の中にICT機器が大きく関わってきていることと、GIGAスクールの実現による確かな学力を基盤とした未来を拓く力の育成を目指している本市として、授業でのICT活用についての項目を掲載している。



【分析】

心の状況については、4項目で昨年度より若干減少していますが、「いじめはどんな理由でもいけないことだ」「人の役に立つ人間になりたい」の質問は全国平均を上回っており、道徳科や学級活動等の取組を通して向上してきている様子が伺えます。しかし、「将来の夢や希望を持っている」の質問は、昨年度に引き続き、令和元年度以降連続して下降しており、以前としてコロナ禍による子どもへの影響が伺えます。学校行事等、様々な活動をコロナ禍前のものに戻し、子どもたちが将来に向け希望を持って学ぶことができる安全・安心な教育環境の実現に努めてまいります。

生活習慣の状況については、「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に寝る」習慣が前回より上昇し、全国平均を上回っています。規則的な生活習慣が定着していることが伺えます。しかし、「自分で計画を立てて勉強する」については、昨年度よりも下降し、全国平均を下回っており、家庭学習の取組に課題が見られます。家庭学習も宿題のみの学習ではなく、授業内容の振り返りや次の時間の予習など自主的な学習にも取り組んでいく必要があります。

「授業におけるICT機器の使用」については、大きく上昇し、全国平均を大きく上回っています。今後も1人1台端末を有効活用した授業改善に取り組み、生徒一人一人が「分かる、できる」授業づくりを目指していきます。